

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 4 号)



1 平成8年9月18日（水曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 辻田 実

3番 三上 英男

5番 忍足 利彦

7番 斉藤 実

9番 島田 保

11番 秋山 光章

13番 脇田 安保

15番 山崎 雅己

17番 岩村 勝弘

19番 川名 正二

21番 山中金治郎

23番 石井 昌治

25番 飯田 義男

2番 本橋 亮一

4番 小幡 一宏

6番 鈴木 順子

8番 増田 基彦

10番 宮沢 治海

12番 植木 馨

14番 永井 龍平

16番 鈴木 忠夫

18番 日下 君敏

20番 神田 守隆

22番 榎本 春光

24番 福原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚

収入役 永野 修

総務部長 鈴木 完二

経済環境部長 小沼 晃

水道課長 谷貝 実

監査委員 山田 教和

助役 小幡 清之

企画部長 寺嶋 清

市民福祉部長 渡辺 富雄

建設部長 鈴木 信一

教育委員会  
会長 高橋 博夫

監事  
監査局長 田村 哲也

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

書記 四ノ宮 朗

事務局長補佐 鈴木 哲

書記 島本 一樹

1 議事日程（第4号）

平成8年9月18日午前10時開議

日程第1

- 認定第 1号 平成7年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 2号 平成7年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 3号 平成7年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 4号 平成7年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 5号 平成7年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 6号 平成7年度館山市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 7号 平成7年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
- 認定第 8号 平成7年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

開 議 午前10時02分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議長の報告

◎議長（山中金治郎君） この際、申し上げます。

決算に関する説明資料中一部訂正の申し出がありました。お手元に配付の正誤表により御了承願います。

### 議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、認定第1号乃至認定第8号、平成7年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

### 質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページ数をお示しくくださるようお願いを申し上げます。

まず、1番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 平成7年度の決算に対する質問をいたしたいと思います。

この決算につきましては、特別委員会が設置されるわけでございますから、細目につきましては省略いたしまして、本年度の決算で最大の課題と言われているのは、NTTの株が決算上どのように処理されておるかということを明らかにしなけりゃならないだろう、このように思っております。そういう点でこの点に集中いたしまして質問を申し上げたいと思いますので、よろしくをお願いをいたします。

まず最初に、市税について御質問を申し上げたいと思います。17ページでございます。17ページの一番最初に市税収入があるわけでございますけれども、この中に不納欠損額が2,900万あるわけでございます。さらには、収入未済額は8億4,000万円あるわけでございますけれども、非常に高額 of 滞納者があるわけでございます。この点につきまして、市税収入済額の中の8億4,125万円の収入未済額の内容を説明を願いたいと思います。それは1つは、この8億4,000万円の滞納額が年度別にその残高が幾らになっておるかということ。次に、その人数を個人と法人に分類いたしまして御説明をいただきたいと思います。

次に、不納欠損額2,927万円があるわけでございますけれども、この不

納欠損額の個人、法人別に説明を願います。と同時に、その主な職業分類をお願いいたしたいと思うのでございます。これが第1点でございます。

第2点、33ページでございます。33ページの財産運用収入の中の2目利子及び配当金でございます。この備考欄に利子収入があるわけでございますけれども、この利子収入のうち3つについて特に説明を願いたいと思うわけでございます。2番目に書いてあります財政調整基金利子 1,100万あるわけでございます。その次に、庁舎建設基金利子が 2,300万あるわけでございます。3番目に、減債基金利子が 1,100万あるわけでございます。この内容について説明をいただきたいと思うのでございます。そして、その主な平均利率はどのぐらいになっておるのか、ひとつ説明をお願いします。

2番目に、財政調整基金の原資は14億 3,000万円でございます。その利息が 1,100万円。それから、庁舎建設基金が、その財源が12億 8,000万円でございます。その利息が 2,300万円でございます。減債基金の原資が 5,600万円でございます。このように一番大きい財政調整基金の14億円の原資とするところの利子が 1,100万円。そして、庁舎の方が12億にもかかわらず 2,300万の利子が入っておる。減債基金につきましては 5,600万円の原資にかかわらず 1,100万。これは14億 3,000万円の財政調整基金の利子収入が大きいということ。これはどうしてこのように出てくるのか、この点わかりやすくひとつ御説明をいただきたいと思うのでございます。

次に、第3点、歳計と基金の現金保管について質問をいたしたいと思えます。139ページでございます。ここに実質収支に関する調書というのがございます。その歳入歳出差引額が7億 5,500万円になっておるわけでございますけれども、この保管方法と監査に使用しておりますところの出納検査書の現金残高表により説明をしていただきたいと思うのでございます。具体的に言いますと、この繰越金、差引額の7億 5,500万についてどのような保管方法がされておるのか、具体的に説明をいただきたいということでございます。

それから、2点目は、211ページでございます。211ページの基金会計があるわけでございます。212ページ、13ページ、14ページに至るまで13基金

の会計があるわけでございます。この基金の合計金額が47億 3,102万円になってるわけでございますけれども、同様この47億有余の基金がどのような形でもって保管されておるのか、それを具体的に示していただきたいと思うのでございます。

3番目に、139ページ並びに211ページに現金の決算年度末現在高の中にはNTT株が、211ページの場合には122.4株、取得価格2億7,350万円を含むとなっております。同様に同じものが139ページにも記されておるわけでございますが、通告質問の中では株購入の時点で現金は既に亡失されておるということが言われております。特に日下議員の質問の中で、株を売却した点が亡失ではないかということを経括的に質問されたわけでございますけれども、この中でもって明確に株を買った時点、そして現金が支払われた時点で既に亡失しておるんだということを明確に答弁されてるわけでございます。同趣旨の質問に対して同じような答弁が繰り返されてるわけでございますけれども、ここでもってこの亡失されてる現金がどうして決算の中に含まれてくるのか。この1行だけではちょっと説明がつかないわけでございまして、この点について非常に亡失性のものが決算上出てくるというこの矛盾についてどのようにお考えになっておるのか、御説明をいただきたいと思うのでございます。

4番目に、監査委員の審査意見についてお伺いをいたしたいと思います。この意見書の1ページでございしますけれども、これは監査意見書というのは法令でもって、自治法でもって決算には必ず監査意見書を添付して提案しなきゃならないということでございしますから、これは附属書類でございしますので、決算審査の対象になろうと思いますので、これは関連して質問をいたしたいわけでございます。

その1ページの第4の審査の結果という項目があるわけでございしますけれども、その中に「いずれも関係法令に準拠して作成され」、そして「帳簿及び証書類と符合し、正確であると認められた」というふうに述べられておるわけでございます。監査の結果は、このように帳簿及び証書類と符合して正確であるという報告でございしますから、これはもうずっと8年間続いて

きたわけでございますけれども、しかしながら違法である株の購入が含まれておるにかかわらずなぜ正確なのか。そして、この点についての記述が1行もないということは、すなわち株は合法的なものとして、現金として保管されてる、こういうことを述べておるんだというふうに認めざるを得ません、決算書にそれ出てるわけですから。そして、正確であるというんですから、帳簿と証書というのは正確であるというのですから。と同時に、これに関連して、既に市長からの監査請求の中におきましては株は違法である。違法であるから、違法である買った時点でもう既に市の現金は亡失しているんだ、こういうことを6月議会以来繰り返し、繰り返し述べられてきているわけでございます。しかしながら、ここでは正確であるというと同時に、決算書の中にもその額が載っておる。亡失していないということをここで証明しておるわけございまして、こうなりますと今までの論議というものは何であったのか、どちらが正確なのか、評価の方向が全く違う展開に発展しかねないわけでございますから、この点についてひとつどういうことであったのか、お伺いをいたしたいわけでございます。

2番目に、月例監査が行われておりまして、議会ごとに報告されております。そして、その中に金融機関別預金残高表というのが言われておるわけでございますけれども、これと月例監査でもって議会に報告される中には現金現在高表ということで記載されてるわけでございますけれども、この金融機関別預金残高総括表と月例監査でもって提出されて議員に配付されておりますところの中におきましては、現金現在高表ということでもって我々は掌握してるわけでございますけれども、この違いはどういうものであるのか。そして、金融機関別預金残高総括表はどこの課でどのようにしてつくられて、そして監査委員の手元にこの残高総括表が行くまでの間にだれとだれが――職名でいいです。係長とか、補佐とか、収入役とかということで職名で結構ですから、どの職でチェックされて監査委員のところまでこれが報告されてるのか、その手順をひとつ教えていただきたいと思います。どこでもってこの総括表がどうしてつくられて、そのつくられた総括表はどういう役職でもってチェックされて、そして監査委員のところ届けられて、監査委員



は現金現在高表というものでもって監査を行ってるわけでございますけれども、ここまでの間にどれだけチェック、確認されておるか、これをひとつ明確にさせていただきたい。そうでないと、監査委員が非常に監査がどうこうと言われておりますけれども、その手順がないと監査委員の仕事とそれから執行部の仕事というものが明確になりませんから、その点をひとつ監査委員の名誉にかけてもこの点についてはきちんとここでもってわかりやすく明確にさせていただきたいというふうに思います。

それから、NTT株がずっと保管されておりながら、これが市長並びに議会に報告されなかった、そしてこれがわからなかったということは、現先取引の中に含まれておったということでございますから、この年度末の現先取引の残高が幾らで、そしてその額は幾つの証券であったのか、それをひとつ分類して件数を教えていただきたいというふうに思います。

以上、申し上げまして、ひとつ御明快な御答弁をお願いする次第でございます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1、市税についての第1点目、収入未済額についての御質問でございますが、平成7年度分につきましては2億6,110万円で、個人2,998人、法人283社でございます。以下、詳細につきましては、総務部長から答弁いたします。

次に、第2点目、不納欠損額の内容についてでございますが、個人が1,020人、法人が67社でございます。

主な職業別分類についてでございますが、個人につきましては、居所不明200人、給与所得者が261人、営業所得者が94人、その他465人でございます。また、法人につきましては、商業関係26社、不動産業が17社、その他24社、こうなっております。

次に、大きな第2、利子及び配当金についての御質問でございますが、基金の運用につきましては各基金を一括して大口定期、現先等で運用し、運用

額に応じて各基金へ配分しているところでございます。平均利率につきましては、大口定期で約1.94%、現先で約0.67%でございます。

基金利子の額についての御質問でございますが、会計間の繰りかえ運用におきまして財政調整基金から一般会計へ一時流用したことによるものでございます。

大きな第3、現金保管についての御質問でございますが、実質収支の歳入歳出差引額7億5,555万円につきましては、N T T株購入分1億200万円を含んだものでございます。監査に提出しました出納検査書の5月末現在の現金現在高表は、例年のことでございますが、出納閉鎖期間中のため、平成7年度分及び平成8年度分を一体として作成したものでございます。運用につきましては、普通預金、定期預金、現先、譲渡性預金等でございます。

次に、基金の合計額47億3,101万余円に係る御質問でございますが、平成8年3月末の出納検査書のとおり、普通預金3億4,361万余円、定期預金33億円、現先1,014万余円、株式2億7,350万円の合計39億2,726万余円となっております。差額につきましては、財政調整基金から一般会計の流用等8億375万余円によるものでございます。

次に、株の取得価格と現金の亡失に関する御質問でございますが、平成7年度決算の調整に当たり、歳計現金及び財政調整基金によりますN T T株保有の事実が確認されましたので、その事実を明らかにするためそれぞれ注記したところでございます。なお、会計処理につきましては、株保有の事実を確認し、処分を行った平成8年度の決算で欠損処理をしまいたいと考えております。

次に、大きな第4、監査委員の審査意見書についての第1点目につきましては、代表監査委員より答弁申し上げます。

第2点目、金融機関別預金残高総括表についての御質問でございますが、その内容につきましては各会計の現在高及び各会計の流用の状況のほか、金融機関ごとに預金等運用種別ごとの残高を表にまとめたもので、会計課において作成し、収入役から監査委員に提出しているものでございます。

次に、現先取引の残高とその内容につきましては、平成8年5月末現在に

において一般会計で1件、3億9,969万余円、基金で1件、999万余円となっております。

次に、第2点目、金融機関別預金残高総括表の取り扱いにつきましての御質問でございますが、これにつきましては代表監査委員より答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 大きな第4、監査委員の審査意見書についての第1点目、審査の結果についての御質問でございますが、決算審査に当たっては、平成7年度館山市一般会計・特別会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が関係法令に準拠して作成されており、計数につきましても株としての現金の保管は違法ではありますが、現金が形を変えたものとして計上され、注意書きの中で株購入の事実が記載されておりますので、正確であると認めたものでございます。

次に、第2点目、金融機関別預金残高総括表の取り扱いについての御質問でございますが、会計課から送付された金融機関別預金残高総括表につきましては監査事務局職員が受理し、歳入歳出日計表等諸帳簿との計数確認を行い、例月出納検査の日に報告を受けているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 市税の収入未済額につきまして、市長からただいま平成7年度の状況を御答弁申し上げましたけれども、平成6年度以前の状況をお答え申し上げます。

まず、平成6年度分でございますが、1億6,725万円、個人1,987人、法人167社でございます。平成5年……

（「もっとゆっくり」と呼ぶ者あり）

◎総務部長（鈴木完二君） はい。もう一度繰り返します。平成6年度分でございます。1億6,725万円、個人1,987人、法人167社でございます。平成5年度分1億2,039万円、個人1,624人、法人113社。平成4年度分1億

6,706万円、個人 1,270人、法人 104社。平成3年度分 6,157万円、個人 964人、法人75社でございます。なお、平成2年度以前につきましては 6,385万円、個人 579人、法人47社となっております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 1番辻田さん。

◎1番（辻田 実君） まず、第1点の市税について3点御質問申し上げたいと思います。

滞納繰越金がこのように平成6年度だけで 1,987人、法人で 167社というものがあるわけでございます。非常に多くの人たちが税金で困っておるんだということがわかりました。平成5年が 1,624名でございます。これもかなりの人があるわけでございますけれども、この平成2、3、4、5、6年度と滞納してる者については年度別にどのように督促をしておるのか。督促の方法ですね。最初は納付令状が来ます。それによって納めるわけですが、納まらなかった2年以降、滞納した者についてはどういう形で督促状が出てるのか、督促状は年1回なのか2回なのか、それがどういう形で行われてるのか、この督促について滞納督促はどのように行われておるのか伺いたい。それによってどのぐらいの年度別の収入というんですか、実績が上がってるのか、パーセントでも金額でも結構でございますから、わかりやすい形でもって御答弁いただきたいと思います。

それから、2番目の不納欠損額の処理について再質問をいたしたいと思います。1,020人の方が不納欠損ですか、もうとれないということでやられたそうでございます。そして、67社の会社が行われたわけでございますけれども、これが住所不明とかいろいろあったわけだそうでございますけれども、その点については御了解いたしますけれども、差し押さえによるものがあつたと思いますけれども、差し押さえられた件数は何件なのか。そして、その差し押さえに該当した金額はどのぐらいになっておるのか、この点について御答弁をいただきたいと思います。

それから、2番目の財産の運用についてでございますけれども、これ基金の財産運用について、特に基金の現金についてお伺いをしたいわけござ

います。基金につきましては、先ほどの答弁の中でもって一般会計の一時流用をしてるからということでございますけれども、この点についてはちょっと納得しがたいところあるんですけれども、こういう方法でいいのかどうなのか、具体的にお伺いします。監査の月例報告によりますと、平成7年度の年度末決算では39億 2,726万円という数字が出ております、3月末が。そして、同じ基金の合計が4月になりますと44億 9,875万円ということでもって1月の間に基金が大きく膨れ上がってるわけでございます。このように1月でもって大きく変動しているわけでございまして、7年度決算の月例監査報告見ますと、かなりの部分が5億ぐらいの間でもって基金が変動しておる。この点については、こういう形でもって基金運営というのはいいいのか。私は基金というのは――例えば市庁舎の積立基金というのは12億何千万はそのまま保管されてると思ってるわけでございます。財政調整基金も同じです。それが年度途中でもって流用されて一般会計へ入っていますということでもって済むのか済まないのかという点について非常に疑義を持つわけでございますけれども、この3年度から4年度に約5億近くの間隔があるわけでございますけれども、この点についてはどこにどういう形で流用されたのか、明確にしていきたいというふうに思います。この点。

3番目に、平成7年度の出納閉鎖では基金残高は47億 3,102万円になっているわけでございます。13基金はこの決算書の中には47億ということでもって決算残高として載っております。しかしながら、平成7年度の3月末、基金会計の決算は3月末でございしますから、このときには基金に現金として保管されている額は39億 2,000万円でございます。決算をするときの金額と、そしてその決算報告書の残高と合わないという決算の方法は適切なのでしょうか。一般的にこういうこと行われていいものか。私は、今回これを調べて非常に驚いたわけでございます。

この決算報告書の中には、繰り返しますけれども、37億円ちゃんとありますというふうにここに、211ページに書いてあるわけでございます。しかしながら、月例監査報告によって会計現金の現在高、基金の総トータルは39億しかないんです。ここに5億近くの決算のときに現金が合わないという決算

がいいのかどうなのか。そういう決算が我々にされて正しいんだと言っても、これはもう言いようがないわけでございます。何でこういうことが起きてくるのか。これはどこ行って説明しても——私は何人かに聞きました。そんな会計なんかあるもんで、決算のときになされた残高が47億ありますとなったら、その残高がちゃんと貯金通帳なり現金でもってぴったり合わなければもう全く合わないようなところをやっているところあるんですか、市役所はそういうところですか、こう言われました。

私どもはこの件については、この決算書と月例監査報告書と監査委員会が出されたこの決算に対する意見書、この3点セットでもって私は説明してるわけでございますけれども、今言ったものが矛盾して——矛盾というか、数字が違って出てきてるんですけれども、この数字の違いはどういうことでもってどう起きてるのか。これはもう明快にやってもらわないと、ただ一般会計に流用してなんて、こんなに一般会計へ流用して決算期に残高合わないなんていう決算があり得るのかどうなのか。役所はそれでいいのか。こんなことやったんじゃ議会でもってその内容を細かく検討しようたてしようがない。N T Tの株問題が買われたということを見つけるにしても、到底こういう報告なされておったんではもう見つけようもない。全く議会としても不可抗力であるし、また監査委員としてもこういう書類が出されてきたんじゃ監査委員としても監査のしようがないんじゃないか、こう思うわけでございまして、ここら辺の統一性を持ってもらわないと非常に困るわけでございまして、今議会のこの決算というのはN T T問題でもって日本じゅうから注目されてるわけでございますから、この際ひとつ明確に御答弁をいただきたいと思うのでございます。

それから、現金の保管について質問をいたしたいと思います。2月末現在の月例監査報告の中におきましては、会計現金の残高表というのがあるわけでございます。これによって我々議会に対しまして毎回報告がなされまして、今残高がこういう形になってるんだなということで、そこには普通預金、定期預金、現先取引、譲渡性預金、債権、転換社債、6項目がありまして、そして一般会計基金、仮受基金ということでもって合計額が出てるわけでござ

います。この現先の中にN T T株が含まれておったのでわからなかったという  
ことであるわけでございますけれども、それはそれでいいわけです。これ  
が数年間にわたってこういう形でもって報告されてきたわけでございます。  
2月末現在はこうになっております。

しかしながら、3月末現在の会計現金の現在高は変わっております。普通  
預金、定期、現先、譲渡性預金、そして債権という項目があったにもかかわ  
らず、債権という字がなくなりまして株式になっております、株式。そして、  
転換社債、このようになっておるわけでございます、ここでもって私は聞  
きたいのは、ここでもって株式というのが違法であるということをあれだけ  
6月議会以降繰り返し、全員協議会でも繰り返しておったわけでございます。  
にもかかわらず、現金残高表に違法である株式というのがこのように記載さ  
れていいのかどうなのか。処理方法で違法である、それによって損害賠償を  
4億も請求するんだと——恩赦でもってちゃんになりましたけれども、大変  
な額です。2人の収入役にそれを返したということですから、慎重に扱わな  
きゃいけないです。それは一貫して株式は違反である、違法であると言い切  
ってきたものが、どうしてこの市の一般会計並びに基金会計の特別会計の現  
金残高表の中に載ってくるんですか。認知したということでございますか。  
認知していれば違反じゃないんじゃないですか。違反のものを認知するん  
ですか。この点についてはわかりやすく説明してもらわないと私ども本当に困  
るわけです、ちゃんと市の公文書でもって議会に全員に配付されたわけでご  
ざいますから。この点について、私は債権の項目がなくなって、そして株式  
となったのはなぜなのか、違法な株式がなぜここに載ったのか、この点をひ  
とつわかりやすく納得のいくように説明していただきたい。

さらに、市の財務規則 228条というのがあるわけでございます。現金の管  
理はこの財務規則によって運用されてるわけでございますけれども、その  
財務規則の中には、財産の亡失があったときには、関係職員はその保管にか  
かわる現金、有価証券、物品もしくは占有不動産、またはその使用にかかわ  
る物品を亡失し、または損傷したときは、次の項に掲げる事項を記載した書  
面に関係書類を添えて直ちに所属の長及び収入役を経て市長に届けなきゃな

らないというのが書いてあるわけでございます。その1は、亡失または損傷した職員の職種名、亡失または損傷した日時、場所、こういうものが明記されておるわけでございます。そうすると、職員には現金の亡失があった場合には直ちに市長、また収入役が亡失をした場合には市長に対して、本来であれば収入役を通じて市長に報告、収入役の事故については職員は直ちに市長に報告するという義務が明確に財務規則の中に入ってるわけでございます。相当の人間が把握しておったにかかわらず、終始市長並びに総務部長が、株の購入は違法だから、違法なものを買ったときにもう既に亡失が始まっているということ、これは今まで終始一貫して我々もそういう方向でもって認めるを得なかった。

しかしながら、今回の決算報告の中においては整然と会計現金残高表に株式が載ってる。決算報告書の中にも、それが含まれてるという形でもって認めてる。亡失ということじゃなくて入ってる。ということは、市の関係職員の中、そして部長、市長もそうです。この決算書は収入役から市長を経て、そして市長から本会議に、議会に提案されるというふうに地方自治法には書いてございます。そして、したがいまして、その段階でこれは当然わかってるはずでございますけれども、わかっておればこれでもって株式がここへ載っておるということ、それは違法なものであるから、違法なものをここで認める、認めて議会に提案された書類がこれでございますから、これはどうなるのか。今までの発言が全く違っちゃうじゃないか。今回の株亡失事件に対するところの根本的な要因がぐらついちゃうわけでございますから、大変な事態になりかねないわけでございます。

我々は、市長並びに総務部長から、再三全協なり、6月議会、17日の通告質問の中でもって違法であって亡失である、こういうふうに言ってきたんですけれども、この決算書、そして監査委員に報告された現金残高表には株式と堂々と載せてある。先ほど監査委員の方から説明があったので、株式が現実にあって、合ってるから監査委員としては現金と株式が合ってるということでもって正確であるとしたということでございますから、これはもう監査委員は当然なことだと思います。監査委員に株式がちゃんと違法であるにも



かかわらず違法でないような形でもって公文書として添付されるということは非常に矛盾がある。そこら辺の矛盾というものを解明してもらわないと、全国が注目されているNTTの株所有問題の本質というものが明らかにならないんじゃないか。この点について私はきちんとした明確なひとつ御答弁をいただきたい。

再度私はしつこいようでございますけれども、4点目には現金の亡失はいつですか。これは日下議員に対しても購入した時点だということがもう明確に答弁されたわけでございます。そして、9月の9日に総務部総務課で作成したNTT問題債権消滅の説明という中の2ページに、「現金の亡失とはNTT株を取得するために公金を支出したことでございます」と書いてあります。「株価の値上がりで徐々に現金が亡失していったというではありません」。「市が保有していた株を売却し得た金額は、損害の回復として亡失額から控除されております」。そして、その次に「亡失の定義は保管されている現金が保管または支配されている状態を離れることです」と文書でもって議員に対して全部配った。これによって終始一貫して株を買った時点でもって既に現金は亡失し、市の予算に穴があいてるということでもって言われてきているわけでございます。

したがって、その穴のあいてるはずの亡失された金額が、この会計現金残高表に公然と株式として簿価として一般会計じゃ1億200万、そして評価額として3,120万と2つになって載ってるわけです。亡失してないじゃないですか、これでは。書類は永久に残るんです。これ議会に配付された――議長の方から月例監査報告ですということでもって議会に配付されて、議会もそれ承認してるわけです。この書類は永久に生きてるんです。生きてる中にこう書いてあるということは亡失してないということじゃないですか。この決算書の中にも確かに含まれておるということには書いてるけれども、含まれておるということは生きてるということじゃありませんか。これが亡失されてないものだったらこの決算報告の中に3億何千万という株の価格は現金がないわけでございますから、この決算書というのはとても認めがたいものになってしまう、現金がない決算書ですから。そうでしょう。

そこら辺について、やはり市がこれだけ問題になって、5月以来3カ月間もう本当に執行部も議会も市民も真剣になって考えてきてるわけでございます。今なお——これは昨日の読売新聞にもでかでかと載っておりますし、そしてきのう配付されましたところの広報にも監査報告の全文が載って、近々のうちには全市民が見るでしょう。それほど大変になってるものがこういう状態でいいのかどうなのか、この点についてひとつ御明快なわかりやすい御答弁をいただきたいと思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） それでは、私の方から滞納の督促方法とまず徴収率に関する御質問にお答えいたしたいと思います。

滞納分につきましては、これは毎年実施されているわけでございますけれども、催告書を年4回——これは平成7年度におきましては1万3,703件を送付いたしまして、その後臨宅徴収等を行いました結果、1億3,618万円を収納したところでございます。

各年度分におきます徴収率でございますけれども、平成6年度分につきましては、平成6年度調定分でございますか、30.6%、同じく平成5年度分につきましては16.5%、平成4年度調定分につきましては17.6%、それから平成3年度以前調定分につきましては17.7%という徴収率になっております。

続きまして、差し押さえの件数と金額でございますが、これは60件、4,914万円でございます。

続きまして、今N T T問題に関係いたしましたの御質問でございますけれども、まず現金亡失に関しました御質問でその日付はいつか。配付した資料等でお示しいたしましたとおり、公金を支出したときが現金の亡失でございます。したがって、昭和62年、63年にN T T株を購入した時点が現金の亡失の時点でございます。

現金が亡失していたにもかかわらず決算書等に株の取得価格が記載されている。特に株の取得が発覚した後に調製された決算書等に引き続き取得価格で載せられているのは不都合ではないか、不適當ではないかという御質

間でございます。確かにおっしゃることはごもっともなものと存じますけれども、しかしながら株の存在が明らかになりましたのは平成8年度に入ってからでございます。具体的には4月の15日ということでございまして、平成7年度中におきましては株の処理につきまして何も行っておりません。さらにまた、なし得なかったものでございます。したがって、平成7年度決算において注を付しまして株の保有を明らかにしたということでございます。株を処分した平成8年度に国、県の指導を受けまして損失額を欠損として処理することとしているところでございます。決算書の記載は株の保有を明らかにしたものであるというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） まず、財産運用について基金の現金の毎月の変動ということでございますけれども、この毎月の変動の原因といたしましては、例えば土地開発基金では土地を購入したとき、いわゆる基金を使用したときあるいは奨学金の返済、あるいは貸し出しというものがあるわけでございますけれども、一番主なものについては平成7年度の実績を見ますと一般会計への流用が一番大きな原因になっているところでございます。

なお、会計間の繰りかえ運用といいますか、基金会計あるいは一般会計でお互いに融通し合う繰りかえ使用ということは制度上認められているところでございます。それに基づいて一般会計で — いわゆる予算上はお金がありましても、資金がないとき等につきましては当然のことながら融通し合う、そういうことでございます。

それから、会計 — いわゆる基金の残高と出納検査書の中の現金の現在高が違うんではないか、3月末と違うんではないかというような御質問ございましたけれども、これはあくまでも今も言いましたように会計の残高の問題と実際の現金の流れ、いわゆる実際に流用とかそういう流れとはおのずとこれは違うものでございます。

それから、金融機関別預金残高総括表と現金現在高表の相違についてということで、これ平成8年3月末の出納検査書、それから平成8年4月末の変

動があるが、説明願いたい。この中で5億7,000万程度の差があるではないかというようなことでございますけれども、ただいまもお話ししましたように、原因といたしましては、現金がプラスになった要因としては、3月末まで財調が一般会計7億9,000万流用していたものが、7億9,000万4月に返ってきた。一般会計の方へ入ってる。それから、債権として9億7,600万、これは財産に関する調べの中で基金の中で債権として9億7,600万あると思いますが、債権が現金に変わってそれがプラス要因になった。それから、財調の取り崩しといたしまして、これは平成8年度の予算の中で10億8,700万財調の取り崩しがあるわけですが、4月でございますので、予算上はお金があるんですけれども、いわゆる資金が不足ということでもって、当初4月に財調が取り崩しいたしましたので、これがマイナス要因。それから、国庫につきましても9,400万これも予算上計上してございますが、4月にお金がないということでもって取り崩した。こういう差し引きの中で5億7,000万の差がある、こういうことでございます。

それから、もう一点、債権の項目がなくなり株式となった点について。これは事実上は出納検査書は監査でつくるわけでございますけれども、その前提になるのが収入役室から監査へと提出している金融機関別預金残高総括表、この中で債権の欄がなくなったから結果的に出納検査書もそういうことになったと思うんですが、この債権につきましては過去国債等を購入した時期がございました。そのまま項目として残っていたわけでございますが、私が収入役に就任いたしましたして実際にはないものについては何もこれはなくしていいではないかということでもって債権の欄は削除したものでございます。

それから、株式となった点についてということでございますが、これも私から答弁していいかどうかちょっとわかりませんが、やはり違法といえども現実に株式というものがあるわけでございます。したがって、どっかにそこに表現をしなければいけない。そういうことで、処分をするまでの間は株式という名のもとに計上をいたした、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） これで時間制限になりましたもんですから終わるわてございますけれども、細かい点については特別委員会も設置されるようてございますから、ひとつそこでやっていただきたいと思います。

私は、11日の7人の通告質問でN T Tの問題取り上げたところでございすし、また今回この質問するに当たりまして担当の職員といろいろと打ち合わせをしたわけでございます。そして、今の執行部の答弁私の趣旨も大分伝わってるはずでございす。細かく私は担当職員に説明したわけでございすけれども、しかしながら市長が11日の議会でもって声を大にいたしまして、これは責任を持って公開してガラス張りでもって解決していくんだということを強調されました。それで、その言葉はいろんなところで聞かれまして、本当に市長もう立派な姿勢だなと尊敬しております。しかしながら、今言った3つの機関の中ではどうもガラス張りでもって公開してるとは思えない。何か隠してるような、奥歯に物の挟まったような、すっきりしない。説明をこうだというふうに突っ張れば、もうそこでもって議会終わってしまえばあとはいいいんだというような格好でもって本質が全く出てきてない。これじゃもう市長が幾ら声を大にしても、関係の取り巻き職員、そういう人たちがそういうふうじゃ全く言っていることとやってることというものは一致しない状況になってしまうというふうに思うし、もうちょっと議会に対して細かく、私が質問した以上にこれはこうですよというようなことを説明してしかるべきだと思うんです。そういうものがなくて、いつも議会の質問に対しても何かすっきりしない。あの7人の11日質問したN T Tの問題取り上げた私はその中の何人かの人、具体的には3人の人、そのほかよくわかりませんが、その人たちはどうもすっきりしない。回答がすれ違いになっちゃって私の言ってることは半分も聞き取らなかった、こういうことを言っております。私は、問答見てるとそういうふうじゃないか。やっぱし市長がガラス張りでもってきちんともう処理してくんだ、ここまで来ちゃった問題だということですから、それは今回の中でもそういう形でもって積極的に実態資料を提出していただきたい。そのことをまず要望いたしたいと思うわけでございます。それで、最後の質問でございすから、そういう点を踏まえてひとつ率直な

御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

順は不同になりまするけれども、ただいま総務部長が、株の発覚は平成8年4月15日だということを言われました。これはちゃんと私の答弁ですから、議事録、議会での発言です。そこら辺でやったというものじゃありません。市長は5月2日初めて聞いたということはいろんな機会でもって言われて、そして即時に監査請求したということが全協、その他でもって言われております。私も、5月2日茂原に市長と一緒に同行いたしまして、帰ってきましたら発覚したということでもって私にも報告がございまして、ああ大変なことになったんだということで、何とかひとつ協力して解決していこうということを書いて、直ちにこれはもう監査請求したんだということでもって、5月2日付でもって監査をされております。その旨はその後開かれた全員協議会等においても初めて5月2日に報告あって、それが発覚して大変申しわけないと誠意を持って善処していくんだ、市民の納得のいく解決をするんだということでやられてきて今日に至ってるわけでございます。

ところが――これは揚げ足とるわけじゃありません。月例監査報告の中でもって平成7年度の出納検査書、これは年度末です。平成8年3月末現在の会計現金残高表、株式というの入っているんです、ここには。今総務部長が4月の15日と言ったんですけれども、3月末日にもうこの書類からいったら我々議会議員としては3月の末日で既にもうつくる段階でもって印刷して監査委員に届けてるということじゃありませんか。我々はこれ信用しないというんですか。それは違いますというんですか。違いますような書類を議場でもって提出して、議会でもって承認を得て、例月検査、はい、正しいでございまして承認しておったものが、この経過をちゃんとしてもらわなきゃいけません。そして、監査の結果は4月の26日ですから、もう既に発覚――発覚というのは、市長の言う発覚、議員の言う発覚は5月2日以降ですから、5月の6日の全員協議でもって我々は初めて知ったんですから、驚いたわけでございますから、そして監査の人は知ってたのかどうなのか、この4月の26日に。

これはここでもって私の方から明らかに監査委員の名誉にかけて指摘して

おきまするけれども、私のところにこの同じ文書をもって、館山市議会議長、辻田 実ということでもって5月の初めに監査委員から月例監査報告が来ました。その中には株式というこの議会に配られたものはございませんでした。同僚の川名議員に聞きましたら、4月のこの監査のときには株式というものはなかったと言ってます。私は、監査報告として受け取った、議長として受け取った書類には株式というのはありませんでした。どこでどう間違っただか知らないけれども、6月議会にこの監査報告が提出された中には、議長あてに配付された書類と違う書類が入って3月末現在の中に株式が入っておる。これじゃ監査委員かわいそうじゃありませんか。監査委員の監査したこの書類には入ってないんです。監査委員から議長あてに来た文書の中にないんです。ないのが6月定例議会になったら3月末には株式がありますと載ってます。私たち議員は3月末には知ってたんだなということを思わざるを得ないでしょう。ここら辺を——監査委員も本当に気の毒だと思います。こんなことじゃ見つけれません。まして、議会はこれ以外に文書ありませんから、出てきてるのは、現金残高表に。この辺はどういうからくりなのか。

そして、今総務部長が答弁しました総務部長段階、これは市長の代理でもって言ってるんです、今総務部長は。それと4月の15日、議事録には4月の15日に初めて知ったと言いながら、6月議会に定例監査報告の中には3月末日に既に株式がわかってると出てるじゃないですか。これは議事録として残るんです。これを我々市民にも説明しなきゃいけないんです。この点についてはしっかりと、ここの辺がもうちょっと——議会を別に困らせようとか何とも思いません。この問題何とか市長ともども解決しようというときにこういう文書出されて今みたいな答弁じゃ、全く真相は何なのかわからないと言いようがない。議会の権威にかけても——監査委員だって本当に私は大変だと思います、監査委員に出したところの書類が違うんですから。その監査委員の方から違った書類が私、議会あてに来たんですから、議長あてに。そのときは載ってなかったんですから。それがいつの間にか6月議会にはすりかえられて3月末には入ったものが配られる。こんなことというのがあっていいのかどうか。それ今生きてるんです。大変な責任問題です。監査委員

はどうするんですか。監査のときはないものが6月に配られてるのは入って出てきてるんです。監査委員やりようがないじゃないですか。この点ひとつ明確にしていきたい。

それから、もう一つは、一般会計からの流用の問題でございますけれども、これはちょっときちんとしてもらえませんか。そういう財政運営していたんじゃ話にならないと思います。この監査委員の監査結果の館山監査報告第23号です。この23号の中には7年度の決算7億 5,552万 2,000円は金融機関に預けてありますと書いてあるんです。いいですか、監査報告の中に。預けてあると言いながら、その項目明細が平成8年度の予算と重複してるから出せませんということ。年度末決算です。そして、この出納監査が、月例監査が出てるんです。監査委員に対しては、平成7年度一般会計の監査報告1ページに、ここにちゃんと今言った数字が金融機関現在高ということで出てるんです。監査委員はこれ持って、ああそうですかということでもってやったけれども、中ではこれはわからないんじゃないですか、執行部は。8年度一緒だから分類できませんというんじゃないですか、今の段階で。きのうも私これ言ったでしょう。そうしたら職員の人は、一緒になっちゃってるからわかりません。わからないような決算をどこでしてるんですか。

そして、監査委員に対しては金融機関に預けてありますよと書いてあるんです。どこの金融機関にどうして預けてあるのかというのはわからない。いまだにわかんない。8年度と一緒のトータルはわかる。8億 4,200万は預けてありますよと。8億 4,000万のうち7億 5,000万円については一緒だからちょっとわかりませんと。ちょっとわかりませんじゃ済まないんです。決算のときぐらいは決算残高とその金額がどこにどういう形でもって保管されてるかということがきちっと出ないような決算報告というのはいいんですか。自治法もそうなってるということで、流用してあるからそれはわからないと。確かに流用してあるから不正をしてるとは思いません、私は信用してますから。信用してたらN T Tの株が出てきたから驚いているわけでございますから、今んところ半分ぐらいしか信用してませんけれども、少なくともこれじゃ我々議会としても審査できないです、決算上わからないですから。だれ



がこれわかってるんですか、そういうの市の中で。そして、流用してあるからいいということです。

そして、現金と一緒にトータルになってるからということであるけれども、基金運用はもう自由に運用できるからということでもって毎月の月例検査——決算報告のときだってもうやりっ放しでもって、そのままやりっ放した状態でもって現金は合ってます、こういうことで、監査委員も現金が合ってるから、はい、そうですかと報告せざるを得ない。じゃ、決算と残高というものは明確じゃない。こういうことを役所でやっておるといふ市民だれも知りません。聞いたら驚きます。私も今回初めて徹底的に勉強しましたら——勉強したといっても私はこの決算書と月例監査と意見書と3冊です。この数字を合ませただけのことを言ってるわけですから、それでこれだけの問題が明確になってる。これは議会に配られた3点セットでございますから、これ以外に我々知るよしはないでしょう。この点について再度どうして、だれがわかってるんだということ、この7年度の決算額の7億5,000万円が8年度と一緒にわからなないというんですから、それは決算にならないです。そう思いませんか。その点について、しつこいようでございますから以上でとめますけれども。

それから、もう一つ、11日の議会でもって小幡議員が質問しました基金の保管・管理についてでございますけれども、これにつきましては財政基金の、館山市の財務規則の第13章226条に、基金の管理に関する事務は当該基金の設置の目的に従い、特に必要があると認めて市長が同意するもののほか財政課長が行うということになるんです、管理は。今回現金の亡失につきましては、現金の管理は収入役がやってるので、したがってその面については、現金の亡失そのものについては収入役に責任あります、それでもって追及してきたわけでございますから。しかしながら、財政資金の管理ということは財政課長でしょう。ということがまず第1点。

2番目に、この条例の226条に、市長が指定するもののほかということ指定したやつがいるのかいないのか。いるんだったら何月何日だれに指定したのか、これを明らかにしてもらいたい。ということは。小幡議員も言って

おりますように、現金の亡失は基金からおりたわけでございますから、基金を亡失した責任というんですか、それは回復しなけりゃいけないのは収入役の職員です。しかしながら、基金に穴があいたわけでございますから、今回は収入役の方からとれないということですからゼロです。株のあれが入って亡失したものは株を売ってある程度補てんしました。補てんしても相当の多くの金が穴があいてるわけです。それは管理上の責任ですから、その穴のあいたの埋めるのは財政課長に責任があるんじゃないですか、管理責任というのは当然未収額については。そこら辺を質問したことについて収入役が全部あるようなことと言ってましたけれども、地方自治法の中には現金の管理はそうなっておるけれども、しかしながらここへ書いてあるように管理責任はそこにあるわけですから、そういう面では財政課長というのはどういう見解を持っておるのか。この亡失して穴のあいたことについて管理者としての見解というのはいまだにちょっとまだされておらないから、小幡議員の質問に対してもそれは収入役で云々というようなことでごまかされてしまいましたけれども、この点について財政課長はどのような見解を持っておるのか、明らかにしていただきたい。

以上、大まかな荒っぽい質問でございますけれども、大変な問題でございますので、今後今言ったような点についてひとつ慎重にガラス張りで市民の納得のいく、市長の言うとおりに私もそういう方向で市長に協力していきたいと思いますので、そういった観点に立ってひとつわかりやすい御答弁をいただきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（山中金治郎君） 収入役。

◎収入役（永野 修君） まず、事件の流れでございますけれども、このことにつきましては5月6日の全員協議会でもたしかお話をいたしましたと思いますけれども、先ほども辻田議員が5月2日に市長が知ったというような意味合いのことを言ったやに私聞きましたけれども、総務部長が答弁いたしましたように、私が市長に報告したのは4月の15日でございます。この流れというものは、4月の15日に私が市長へ報告いたしましてから、市長は4月の20

日に監査委員に対してこれを報告をしたわけでございます。したがって、監査委員4月20日に知ったということになります。それを受けて5月2日にそれぞれ――5月1日でしたか、弁護士等の相談を受けて会議起こして最終的に5月6日の全員協議会に持っていった、こういうことでございます。

それから、したがいまして事件の流れ等はそういうことでございますけれども、もう一つは出納検査書の3月末ということでございますけれども、3月末の出納検査書といいますか、それは最終的には監査でつくるわけでございますけれども、その資料をつくるのは当然のことながら3月31日、いわゆる月末の締め切ってその翌月につくるものでございます。したがいまして、それをつくって4月26日の監査に持っていった、こういうことでございます。

それから、当初これが株式というものがなかった、議長の時にはなかった、議会に提出したのにあった、こういうことでございますけれども、このことにつきましても4月20日監査委員と協議の中で、どういう表現をしたらいいのか、それはやはり正しいやり方なのか、そういうことを弁護士等にも相談の上、とりあえず有価証券ということをやっておきますけれども、その後指導を受けて正しくいたします、そういうことの中で監査委員と協議の中で最終的に株式といことでもって計上をいたした、こういうことでございます。

それから、次の一般会計の今流用の件でございますけれども、辻田議員はこういうことはあり得ないというようなことでございますけれども、このことについてはもう全国共通でございまして、こういうやはり資金繰りというものは当然制度として認められている、こういうことでございます。

それと、年度末の決算とそれから出納検査書、ここにも書いてあるとおり、出納検査書は会計現金の現在高でございます。したがって、もう性質が違います。そういう中で、会計の現在高と現金の流れと性質が違いますので、ただ館山市としてはこういうつくり方をしている。例年これはもうずっと長い間出納整理期間については7年度と8年度あわせて現金の流れをお示ししている、こういうことでございます。

私からは以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 財務規則第 226条で、基金は特に市長が指定するもの以外は財政課長が管理することとなっておるわけでございます。

まず第1点目、指定した者とはだれが具体的にいるのかということでございますけれども、指定した者はございません。したがって、13あります基金の管理は財政課長が行っておるということでございます。

続きまして、このNTTの損失にかかわります財政課長の管理をする者としての立場上の問題でございまして、財政課長といたしましては各基金の現在高あるいは基金の積み立て、取り崩しという管理に携わっているわけでございますけれども、今回の株の購入に関しましてはその株の取得の事実が隠されていたということでございまして、財政課長は知り得なかった状態にあったということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質疑を終わります。

次に、3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） さきに通告しておきました非常勤職員の報酬について伺いたします。

私は参与について質問をしたかったのでありますが、これは7年度に支出がなかったので答えようがないと言われ、私の方不勉強でした。しかし、総務委員会でこれを質問したいと思います。ちなみに、参与の月額報酬は19万3,000円、これが限度で市長が決めるということになっております。

そうしまして、条例を見ておりましたところ、国際交流員の報酬というのがありましたが、これが36万円を限度に支給されており、これも市長がその範囲内で決めると言っておりますが、どのような金額になっておりますか、お尋ねします。36万円といたしますと余り高くないように思われますが、どのような金額になっておるか、伺いたします。

また、審議会、それから委員会というのが大分あるわけですが、このような委員会、審議会の統廃合の検討の余地があるかないか、この年間経費等お

尋ねいたします。

以上で御答弁によりましては再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、非常勤職員の報酬についての問題でございます。国際交流員の報酬について、本事業は地方公共団体の国際交流事業への協力を目的に、語学指導等を行う外国青年誘致事業の一環といたしまして、国の自治省、文部省、外務省が共同で推進してる事業でございます。国際交流員の活動といたしましては、英文パンフレットの製作とか、国際交流講座の開催あるいはインターネット館山ホームページの英語版製作など多岐にわたっておりまして、日常的な市民との交流と相まちまして国際理解に多大な成果を上げておりますが、報酬の実支給額は実額で32万 5,000円でございます。

第2点目の非常勤職員の委員会、審議会の決算額についての御質問でございますが、平成7年度中に開催されました35の審議会等におきまして報酬の総額は429万 2,000円でございます。御指摘の整理統廃合についての問題でございますが、ことし3月策定いたしました館山市新行政改革大綱に定めたとおり、設置目的と必要性を検討してまいる所存でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） よくわかりました。この国際交流員につきましては、また金額が私らの感覚からすると若干少ないかなという気もしますが、ほかに国、県の方の手当といえますか、それはあるのでしょうか。それだけ伺って質問を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 国際交流員の報酬でございますけれども、これにつきましては招致外国青年就業規則というのがございます。これは全国共通の規則でございます。これの8条で報酬額の基準が決められております。したがって、各自治体ともこの規則に沿って報酬額をやってきたという

ことでございます。

以上であります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で3番議員三上英男さんの質疑を終わります。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました3点についてお尋ねをいたします。私の質問は、決算事項別明細書に沿って行ってまいります。

まず、51ページであります。総務費中の防災対策費についてお尋ねをいたします。昨年は、1月に兵庫県南部地震、いわゆる阪神大震災が発生し、改めて地震の恐ろしさを目の当たりにしました。市民の生命、財産を守るという最も基本的な自治体の仕事の大切さを確認したところであります。平成7年度は、本市においてもそうした中で震災対策が本格的な事業として取り組まれた最初の1年でありました。昨年の防災対策としては、まず着手した点は、主要な施策成果に関する報告によれば、備蓄食糧の確保、防災機材庫の建設や資機材の整備などとされています。

私は、先月那古地域の防災研修として東京都の本所につくられた防災センターに行っていました。大変貴重な経験をいたしました。立体映像で臨場感そのままに大地震をいわば対体験できるシステムがあり、その中で都市生活がいかに危険に満ちているかということを改めて感じた次第であります。商店などの各種の看板の落下防止やショーウィンドーなどガラスの飛散防止、ブロック壁の倒壊防止などでき得る限り危険要因を未然になくし、安全なまちづくりを進めることが大変重要な防災対策であるということでもあります。人が多く集まる公共施設などでは率先してそれらの措置を急がなければなりませんが、同時にそれだけにとどめずに広く安全なまちづくりとして広げていかなければならないのではないかと思いますのでありますが、どのようにお考えになっておりますか。

次に、69ページであります。老人福祉費についてお尋ねを申し上げます。在宅福祉の3本柱と位置づけられておりますホームヘルパー、デイサービス、ショートステイの各事業について、その利用率の実際はどうなっております

か。急速に高齢化が進行する中で、その普及を急ぐことは極めて重大な課題になっていると思うのでありますが、館山市の普及状況は全国的な指標や、また全県的な指標から見てどのように評価できるものと考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、85ページであります。上水道費に南房総広域水道企業団出資金が支出されておりますが、これに関連してお尋ねいたします。南房総広域水道の水が来るようになりました。これまでの毎年のようになっていた水不足からは解放されたことになると思うのでありますが、水道事業への各種の出資金の額も大変なもので、これらが一般財源で賄われていくだけにとどまらず、今後相当な額が料金値上げとしてあらわれてくるのではないかと多くの市民が心配しているところであります。水は生活を支える基本であります。市営水道、三芳水道ともに料金値上げを避けるべきと思うのでありますが、この現況についてどのように認識をされておりますか。本日の新聞報道等では、勝浦市では大幅な値上げに踏み出すとの意向を表明したということが報道されております。それだけに館山市のこの問題についての認識をぜひお聞きしたいと思うわけであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、防災対策費についての御質問でございますが、平成7年度から市内公共施設のガラス飛散防止及びブロック壁の倒壊防止対策を実施しております。また、市民への広報紙に防災上の心得を連載いたしました。今後も引き続きまして市民意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

大きな第2、老人福祉費についての問題でございますが、ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイの利用状況についての御質問でございますが、館山市の平成7年度におけます高齢者100人当たりの利子状況は、ホームヘルパー66.1日、デイサービス11.4日、ショートステイ29.8日でございます。県内各市における平成6年度の利用状況を見ますと、館山市はホームヘルパ

ーが3位、デイサービス29位、ショートステイ9位でございます。

次に、大きな第3、水道関係の問題でございますが、最初に水不足に対します議員の皆さん方の御協力に対しまして心から感謝とお礼を申し上げます。さて、水道事業では、南房総広域水道企業団からの受水費等によりまして事業費用の増加が見込まれております。水道事業の健全な財政運営を図るため、水道料金の改定をお願いせざるを得ないものと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 防災対策の問題で市としていろんな公共施設の安全対策ということで非常に率先してやるということは大変大事なことだと思うんですが、先ほどお話ししました本所の防災センター、都市生活がいかに危険に満ちているかということをまざまざと感じたわけで、まちなどで商店街なんかですと商店のいろんな看板が落下する。あるいは、ショーウィンドーが割れるとかあるいはそれが飛散するとか、それからブロック壁が倒れてきてその下敷きになるとかいうようなことというのは、未然にきちんとした対策をとれば相当程度防ぐことができることだろうと思うんです。公共事業が公共事業としてやることは当然なんですけれども、しかし同時に——本所の防災センターで教わったことでもあるんですけれども、皆さん買い物行くときにお客さんの安全を大事にするお店というのを育ててくださいというようなことが言われまして、それも大事なことだ。やはりお店屋さんそれぞれ商店もお客さんの安全を第一に考える店づくりといいますか、そういう視点、売らんかなということだけではなくて、そこには商人としてのやはり責任というものがあるでしょうし、やっぱりそういうものをうんと大事にしていけといいますか、そういう雰囲気といいますか、そういうものを行政が育てていくということは大変大事なんじゃないかなというふうに私は思うんです。そういう商店街ですとか、お客さんの集まる場所、今大型店なんかではかえっていろいろ行政の規制もあってそういうことでかなりやられてるわけなんですけれども、個店の場合十分それが意識されていなかったり、またそれをやろうにも十分な対応ができないというような問題もあらうと思います。で



すから、そういう点ではそう大きなお金がかかる予算上の問題というよりも、むしろやはり意識の問題という点で大変行政がそういう点での旗振りといいますか、いうところに踏み出していくということを今後ぜひ御検討いただきたいなと思うんですが、その辺安全なまちづくりという、こういうもっと広い視点からのお考えはどうかということです。

それから、在宅福祉の問題でありますけれども、ホームヘルパーは利用率非常に全県3位ということですから、大変頑張っているという、あるいはショートステイも9位ということですから、決して悪い状態ではないというふうに思うんですが、デイサービスに関しては29位というのはちょっといただけないな、率直なことで。これはこれまでも繰り返し問題になっていたところで、決定的にやはり問題なのは施設の問題なわけです。この施設についての見通し等についてどのようにお考えになってくるのか。これは一刻も早くやらないと非常に問題になるところではないか。その辺はどういうお考え持ってるか。

それと、ホームヘルパーの問題については、認識として非常に普及はかなり高いというんですけれども、実は千葉県全体は全国的な視野から見ると普及が大変おくれしているところ、県全体。今県内の比較だけのようなんですけれども、全国的な面から見ると大変千葉県はおくれしているところだと率直に考えなきゃいけないとこだと思います。

そういう点で、このホームヘルパーの問題では、従来いわゆる介護型と家事援助型という2つのタイプがあったわけで、これからはいわゆる介護型のヘルパーへのシフトを総体的にどんどん高めていかなければならぬのではないかなというふうに指摘されているわけです。そういう点で、館山市の現状はどうなのか。そしてまた、今後の対応という点でもその辺はどういうふうに考えておられるのか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

それから、南房総の広域水道にかかわる問題ですが、料金値上げを考えているというようなことで、これがどの程度の、かなり——きょうの新聞報道でも、勝浦では前回20%台ですか、その提案をして結局は議会の反対でそのまんまやめちゃったというのがことしの3月でしたか。しかし、また改め

て値上げを前回以上の大幅なものというようなことで、新聞の報道だけでも、検討されているようでありますけれども、館山市の場合は現在のコストの現況ですと、市営水道は決算によれば 164円70銭という、こういうコストになってるわけです。それで、現実問題としてコストの見通しとしてはかなり大幅なものが出てくるというふうになりますと、政策的にやはり相当料金の値下げについてのいわゆるコスト主義だけではなくて、政策的な考え方というのを相当入れていかないとならぬのじゃないか。今までは館山市は 164円70銭のコストに対して料金で 162円50銭ですから、大体それに料金とコストというのは大体リンクするといえますか、そういう考え方でこれまで運営してきた。昨年場合は特に濁水問題なんかあったから料金がちょっと下がったということかなと思うんですが、そういう点では基本的な水道料金に対する考え方を従来の流れからは一步も二歩も変えないことには相当な値上げになりかねないという危惧を持つんです。その辺はどのようにお考えになっているのか、お聞かせいただきたい。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） まず、1点目の防災関係の安全なまちづくりという対策の御質問でございますけれども、民間の対策につきましては本来自主的に実施するわけでございますけれども、今後県の指導あるいは商店街とか、そういった各種団体の協力を得て啓発に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから、デイサービスの関係でございますけれども、デイサービスに近いサービス体系としてデイケアがあるわけです。それを含めての県の統計と数字が出ておりますけれども、それは先ほど市長から申し上げました数字でございます。順位は29位ということでございますけれども、これから館山市は平成9年度供用開始を予定しておりますデイケア、これは定員20名ということで予定されております。それを含めてこれから利用度が高まっていくんじゃないか。いずれにしても、デイサービスは在宅サービスの3本柱の重要な事業でございますので、今後も引き続き計画にのっとりまして検討し

てまいりたいというふうに考えております。

それから、3点目のホームヘルパーの関係ですが、介護型の充実という御質問でございますが、今後も引き続き利用者の内容、要望等をとらえまして内容の充実に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 水道料金の関係でございますが、まだ南房総の受水単価が先日決定したばかりで細かい数値は固まっておりますが、コストの面につきましても確かに平成7年度 164円70銭、これが平成9年度、10年度になりますとあるいは 300円前後の数値になるかもを想定しておるところでございますが、これを水道料金だけで賄うとなると、これはもう大幅なアップになってしまうわけでございますが、政策的考え方と申しますか、料金はなるべく抑えて、現在県で市町村水道総合対策事業の助成という制度がございますが、これは県が現在のところ 200円という原価を定めているわけですが、給水原価の単価ですが、これを超えたものについて一般会計が助成した額あるいは2分の1の範囲内というような、ほかにも財政力指数とか細かいことあるんですが、おおむね2分の1補助という制度があります。こういう制度を利用しまして利用者の負担をなるべく抑えていきたい、こんなふうに考えているところであります。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第8号、平成7年度各会計決算につきましては、9名の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思ひます。これに

御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定により、

2 番議員 本橋 亮一さん	5 番議員 忍足 利彦さん
8 番議員 増田 基彦さん	10 番議員 宮沢 治海さん
12 番議員 植木 馨さん	14 番議員 永井 龍平さん
17 番議員 岩村 勝弘さん	23 番議員 石井 昌治さん
25 番議員 飯田 義男さん	

以上9名を指名いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました9名の皆さんを決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました委員の方々は、後ほどこの議場におきまして正副委員長の互選を行いますので、御了承願ひます。

延 会 午前11時47分

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明19日から26日までは委員会審査のため休会、次会は9月27日午前10時開会といたします。この議事は、議案第57号乃至議案第69号、認定第1号乃至認定第8号にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、

討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月27日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 認定第1号乃至認定第8号
- 1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任